

第3回名張市総合計画審議会の要点とその対応（事務局案）

第1章 まちづくりの基本理念

- ・基本構想10頁の図の矢印は、目標を上を書いて、人権と人間尊重は基盤だから上下が逆にすべき。

福祉の理想郷を説明する概念図はご指摘のとおり修正します。

- ・「新しい公」の説明には、「...行政との協働によって...」という表現を入れるべきである。
- ・「新しい公」という言葉は、同じ意味の3つの文章がダブっているようなので、適切に表現すべきである。

新しい公については、ご指摘を踏まえて原案を見直し適切な表現に修正します。

第2章 将来都市像とまちづくりの基本方向

2. まちづくりの基本方向

○産業・雇用創出

- ・人、自然、文化に産業を追加する。
- ・大都市周辺部の地価の下落等による都心回帰が進めば若者が都会に流出し、名張には年寄りだけが残し、逆のピラミッドが形成されることになりかねないので、雇用を吸収するという意味で、産業という柱が必要である。
- ・製造業の誘致が難しいのは分かっているが、新しい産業を興すとかが、名張独自の産業で起業を奨励するとか積極的に取り組むべきである。
- ・日本の製造業自体がバブルの時はGDPの35%を占めていましたが、現在は20%になり、さらに低下するなど空洞化に向かっています。製造拠点が、中国やインドに移っているので、日本で製造業を伸ばしていくのは困難であり、名張では更に厳しい。伊賀地域には、製造業であれば“伊賀メディカルバレー構想”があり、上野の“ゆめぼりす”あたりには医薬品関係の企業の進出がある。名張でも、関連企業の誘致等を進めるため、“産・官・学”の連携、特に“官”“学”の支援が重要である。
- ・資源のないところに新しいものを持ってくるというのは、相当、特殊な条件がないと成立しない。産業は地域の資源の中からは生まれてこないもので、何が名張の資源なのかという視点から検討することが重要。
- ・商業やサービス業、医療・福祉などについては、市民所得の大きな増加につながらない。雇用の創出はあっても価値の喪失である。

産業は都市の活力を支える重要な要素であり、政策の大綱、基本計画等で積極的な施策を展開する方針を明らかにしているが、名張市の現状及び将来を展望するとき、製造業など従来型の産業を基調としたまちづくりの基本方向を描くことは

困難あると考えますが、さらに検討をお願いします。

新規産業、新しい産業展開については、重要な課題であり積極的な取り組みを行う方針ですが、名張市の将来像を実現するための、「まちづくりの基本方向」として位置づけるだけの必然性、内実があるかは疑問であると考えますが、さらに検討をお願いします。

○暮らしぶりを体験

- ・地域間競争のなかで、名張の何を売りにするのかということですが、“暮らしぶりを体験する”ということにある。“暮らしぶりを体験する”というのは、ひとつは短期的な暮らしぶりを体験する“観光”で、もうひとつは“そこに住む”ということで、これまでの製造業の誘致ではなく、大阪で仕事をしていた人が名張で仕事をして、収入が300万円に減少したとしても、余った時間で農業に従事して100万円の収入を得るといったことが考えられる。それが観光資源になったり、農業の担い手になったり、人口の維持につながる。

- ・原案では、人と自然と文化を基調にしたまちづくりを進めることが結果として、産業を含む名張の活力・元気につながるといったストーリーを読み取ることができない。

ご指摘のとおり名張の特長・資源を最大限発揮しつつ、内外の人々が名張での「暮らしぶり」を体験してみたいと感じられるような、魅力ある「暮らしの立て方」や「まちの姿」を創造することをねらいとして原案の「まちづくりの基本方向」「まちづくりの戦略」を作成していますが、そのこと（魅力ある暮らしのまちを創造することが名張の元気、活力につながる）を明確に表現できるよう、原案を修正します。

- ・名張市は生活の場で、上野市は働く場という性格があるが地域間の連携と機能分担により、名張の人口を維持・増加するという戦略も成り立つ。

ご指摘の点等を踏まえて、「暮らしのまち」という将来像やまちづくりの基本方向を描いています。

○なりわいの姿を描く

- ・今日の議論を聞いて、基本構想12ページの図の3つの基本方向である「人」「自然」「文化」の3本柱を貫く形で「なりわい」というものがあるのも良い。

職住近接の暮らしの創造、職業選択の幅の拡大（起業にあたっての地域間格差の縮小など）、名張の定住条件（産・学・住・遊）の向上などの視点から「なりわい」を描き、戦略を構築することも可能と考えます。ただし、将来像、まちづくりの基本方向としては、やや複雑な展開になる可能性があるとともに、基本方向から政策の大綱への展開が困難になることも考えられます。戦略の視点にそうし

た観点を加えることなども含めて、さらに具体的に内容と展開について検討をお願いします。

第4章 まちづくりの戦略

- ・「戦略」という言葉は、戦争用語なので「変革」「改革」など別の言葉にすべきである。

ご指摘を踏まえてさらに検討します。

第1節 戦略の視点

- ・名張市の元気づくり・活力の向上といった戦略の視点が必要（原案では読み取れない）

戦略の視点で明らかにできるよう修正します。

第2節 リーディングプラン

<全般にわたる事項>

- ・産業振興（製造業・新産業）についてのプランを含めるべきである。
- ・言葉で理想郷を唱えるだけでなく、「しあわせの村」のように現実の理想郷を作ることが大事である。現実に生活している市民は、いきいきとした生活よりも、安心できる生活を望んでいる。
- ・リーディングプロジェクト全体に、実現の芽があるかを検証しておくことが重要である。芽があれば実践的になるが、どこかで勉強してきたようなキーワードだけだと“きれいごと”に終わってしまう。

重要なお指摘であり、さらに具体的に提案、検討をお願いします。尚、原案は名張の資源（あるもの）を活かす視点から実現性を重視して検討を進めてきました。

1. 市民活動推進プラン

2. 地域づくり推進プラン

- ・名張市では、子育てのひと段落した女性の能力を活かしきれていない。市民活動推進プランで、能力のある女性を雇用し、引き寄せられないかを考えていくことが重要である。このため、無償のボランティア活動だけでなくコミュニティビジネスや有償ボランティアなどの仕組みづくりが重要。
- ・女性は地域で暮らしているので、老後にボランティアに参加する人が多いが、男性は趣味に入って、ボランティアに参加する人が少ない。定年後の男性をターゲットにして、ボランティアとして活躍していただけるような取り組みが重要である。

高齢者、女性、若者世代を含め「能力を活かす場」、「やりがいのある仕事」が求められており、それを実現するための重要な取り組みの一つが、両プランであり、ご指摘の点を踏まえてリーディングプランを作成しています。国の税制等に負う部分が大きいといえますが、非営利団体の担うべき分野は今後ますます増大するものと考えており、無償ではなく有償のボランティア活動やコミュニティビジネスなどは、今後大きな雇用の場となる可能性があると考えています。

3. 水と緑のガーデンシティプラン

- ・名張は川のまちだが、住民には、川の重要性や価値が認められていないようである。川を活用して、リバーツーリングや川のまちづくりが全国で行われているが、名張川もそれに値する価値がある。
- ・社会基盤の整備というものが必要になるが、ハードの整備だけではなく、ソフトとハードの両方の整備が必要。例えば、名張地区のまちの中を網の目のように、築瀬水路が流れておりましたが、約半分くらいが暗渠化されている。名張地区の空洞化が進んでいますが、空洞化対策と併せて、もう一度、水と緑のまちを再生・整備することによって“にぎわい”を取り戻すことができるのではないかと考えています。集客交流の視点、築瀬水路についても記述を追加します。

4. 農のある暮らし、スローライフプラン

- ・農業は、後継者がいないという状況であり、美しい田園環境を守るためには、土地利用・農地行政を本気で進めることが不可欠である。
- ・農地を残すには、ひとつは規制によって残す。次に、使って残す方法です。ひとつは儲かる農業で、もうひとつは、儲からないでも非農家の人を遊びというか、余暇でいれる。3つには土地活用で残すというのがあります。ここではアグリパークとか、レジャー系の話と「食」と「農」のネットワーク、地産地消という形で、それなりに使おうという話が入っている。

土地利用構想で掲げた方針を具体化するため、基本計画の施策展開で適正な土地利用を計画的に進めるための取り組み方針を明らかにします。

農地・森林については、特にその保全・活用が重要であると考えられることから、このリーディングプランを作成しています。ご指摘のとおり厳しい状況があり、今後、農業・農村分野の政策で具体的な取り組みについて検討を進める必要があると考えます。（総合計画で具体的、専門的に検討することは困難です。）

- ・「スロー」の語訳は、遅いとか、活力がないとか、不活発とかであり、あまり良いイメージを与えない言葉である。「ゆとり」や「うるおい」といった意味ではないので、表現を再検討するべきではないかと考えています。

日本語としては定着しつつあることから、注釈を付してこの用語を使用したと考

えます。

5 . 能樂のふるさとプラン

- ・「能樂のふるさとづくりプラン」で、能樂のことが書かれているが、文化の継承という視点を重視する必要があると思うので、学校教育に能樂を取り入れてもらいたい。上野市では芭蕉を教育に取り入れて、俳句づくりをしている。奈良県の大淀町では、子どもたちに能樂の雛子方の体験や実際に仕舞をさせている。
- ・子ども狂言というのをやっておりますが、伝統文化の継承に取り組む必要がある。ご指摘の趣旨を加え、原案を修正します。
- ・美旗地区の美旗古墳群や初瀬街道のまちづくりを観光ルート化し、ぶどう農家が沢山あるので、ぶどうを使ったワインを造るなどの取り組みが必要。
- ・観阿弥公園や火縄もあるので、それらも併せたルートを検討する必要がある。また、観阿弥公園の拡充・整備も課題である。
- ・全国的にも価値のある美旗古墳群の活用、黒田庄についても取りあげるべき。ご指摘の趣旨はこのリーディングプランに記述していますが、修正・追加すべき事項があればご提案ください。
- ・伝統文化としては、能樂もあるが、この地域では各地に「獅子舞」があるようですが、若者によって、その伝統文化を継承してはどうか。具体的に記述していませんが、「地域に根ざした伝統文化を継承、発展させる」ことが重要であると表現しています。
- ・忍者は上野というのではなく、名張市でも積極的に活用する必要がある。忍者についても触れるように修正します。
- ・文化的な行政として、これまで名張市では開発により、破壊を行ってきたが、今後しっかりと保全していく往診を明らかにすべきである。基本計画の施策展開等で、できる限り保存する方針を記述します。

7 . 街の顔づくりプラン

- ・地方都市にはまちの顔となる中心市街地が必要であるが、名張駅を降りても、どこに“まち”があるのかわからない。ご指摘の問題を踏まえて、名張の顔といえる中心市街地を形成するため、このリーディングプランを作成しています。
- ・名張市では、名張駅から鴻之台を経由した所、名張駅桔梗が丘線を通じて、その周辺が名張市の中心市街地という観点のなかでまちづくりが行われている。鴻之台の国道 165 線周辺地域が中心市街地として発展していくには、三ツ池工業団地をはじめ、国道 165 線沿いの工業専用地域の再編が必要であり、滝之原工業団地に移転し、中心市街地の形成をはかるといったことも検討していく必要がある。

る。

本計画の計画期間内では、実現性を踏まえ、このプランに記述したとおり名張駅周辺整備、名張地区既成市街地整備、鴻之台・中央西土地区画整理事業施行区域等のまちづくりに取り組むことにしています。ただし、超長期的な観点からは、ご指摘のとおり、蔵持工業団地周辺の土地利用の再編が必要と考えており、土地利用マスタープラン等で検討を進めるという方針を掲げています。